



2024年6月 診療カレンダー

住所: 東京都中央区日本橋大伝馬町13-8  
メディカルプライム日本橋小伝馬町3階  
TEL:03-3639-3110 FAX:03-3639-3112

2024年7月 診療カレンダー

Calendar for June 2024. Days 13, 20, and 27 are highlighted in yellow.

祝  
当院は5周年を迎えました  
これからも  
よろしく  
お願いします  
18時最終受付



Calendar for July 2024. Days 11, 18, 25, and 31 are highlighted in yellow.

「今月の言葉」

自分が弱虫であり、その弱さは芯の芯まで自分につきま  
とっているのだ、という事実を認めることから、他人を見、  
社会を見、文学を読み、人生を考えることができる  
～遠藤周作(作家)～

診療時間表 (Clinic Hours Table) showing availability for general and emergency services.

●9:00-12:30



祝・開業5周年

まもなく梅雨のシーズンですね。皆さまいかがお過ごしでしょう  
か？

2019年6月1日に開院した当院は、この6月1日に5周年を迎  
えることができました。5年前のオープン初日も今年と同じ土  
曜日で朝からドキドキしていると、最初に診察室に現れた患  
者さんはなんと小学校時代の同級生でした。そのときの驚き  
と、嬉しさを今でも思い出します。5年間なんとかやってこ  
られたのも、当クリニックへ通院して下さる皆さま、日々の診  
療に全力で協力して下さるスタッフ、そしていつも元気をく  
れる家族のおかげです。当院は令和元年5月1日に開設届  
を出しておりますが、令和元年は同日5月1日から始まりで  
すので、まさに令和とともに歩んでいることとなります。

この5年間はご存知の通りコロナ禍の5年間という印象があ  
るかと思います。ただ開業した時点ではまだコロナの流行前  
で、当院は夏開業のため季節的に患者さんがとても少ない  
状況から、冬に入り患者さんが増え始めたところでコロナの  
流行がやってきたのです。その後外出自粛の要請、非常事  
態宣言となり文字通り街から人が消えていきました。オフィ  
ス街にある当院を訪れる患者さまも少なくコロナ感染の恐怖  
と先の見えない日々で落ち込む毎日が続きました。  
その一方で、コロナの流行は医療の問題でもありますので、  
医療情報をブログに載せて発信したり、流行の初期段階か  
らPCRの検査や発熱外来、オンライン診療の実施など、自  
分ができることは何かを常に考えて対応してまいりました。  
コロナ禍に遭遇した嫌がらせなど、苦い経験もありましたが、  
正しいことを誠実に粘り強く行うことがいかに大切なことを  
痛感する日々でした。

さて今回は5周年として私の医師としての歩みを簡単にご紹  
介させていただきます。私が医師をめざそうと思ったのは高校の  
国語の教科書に載っていた遠藤周作の「札の辻」に大変感  
銘を受けたのがきっかけです。彼はキリスト者として「棄教し  
た人物」や「弱者」をテーマに扱った作品が多いのですが、  
高校生の当時勉強もろくにせず、部活動もやめて中途半端  
な「ダメな自分」に遠藤周作の小説の「弱者」を重ね合わせ  
ていました。そして自分のような「ダメな人間」こそ病人に優  
しく寄り添うことができるのではないかと青くさい気持ちで医  
師をめざすようになったのです。

しかし苦勞して北大の医学部に入ったもののオーケストラ活動  
に没頭する毎日、自分が医師になってからの生活はイメージで  
きませんでした。実習が始まる前は手塚治虫の「ブラックジャッ  
ク」や渡辺淳一の「白夜」の影響で外科医に興味を持っていま  
したが、外科の実習で自分には合わないと思い、白血病を患っ  
ていたオケの先輩のお見舞いに大学病院の血液内科へ通ううち  
に血液内科医になりたいと思うようになりました。医師になっ  
て働き始めた大学病院では念願の血液内科研修を経て、次第に  
循環器の魅力に取りつかれて結局は循環器内科の医局へ入局  
することにしました。循環器科は他の内科と比べると、救急対応  
の頻度が高くカテーテル検査をはじめとした検査・治療が多く、  
やりがいのある診療科と感じました。ただし、夜間休日を問わず  
時間外の呼び出しも多く体力的にはなかなか大変な現場でした。  
大学病院では重症の患者さんの管理や珍しい症例も多く経験し  
ましたが、とくに東大病院では東大で1例目の心臓移植の日に  
ちょうどCCU当直でその現場に立ち会えたのは貴重な経験にな  
りました。循環器の治療は重症で救命困難と思われる患者様も  
薬や手術でよくなる一方で体に負担のかかる検査・治療、高額  
な治療が多く、病気を進行させないための予防医療の重要性を  
実感する日々でした。

開業を決意した根底には、生活習慣病を管理することでその先  
の循環器疾患を予防したいということと、大病院や専門病院に  
はない心のこもった丁寧な診療をしたいという思いが募ったから  
でした。また内科の開業医は病気のゲートキーパーの役割もあ  
りますので、自分の専門以外でも勉強をして知識と経験を重ね  
ることは大事だと思っています。

最近外来診療をするうえで、自分のやっていることは「シャーロッ  
ク・ホームズ」と似ているなあと思います。コナンドイルの「緋色  
の研究」という小説の中で、ホームズはワトソンと出会った時に  
「アフガニスタンに行っていましたね」と言い、彼をびっくりさせます。  
そしてその推理の根拠を一つ一つ述べるのです。私も診察する  
ときは患者さんの疾患は何なのか、何にお困りなのか、問診や  
診察をしながら推理します。その症状が意外な原因だったりする  
こともありますし、シャーロック・ホームズが事件を解決するよう  
に、あざやかに病気がよくなることもあります。病気の患者さん  
がよくなって元気になった様子を見ると開業医としてのとてもや  
りがいを感じて心底嬉しくなります。まだまだ開業医としては未  
熟な点がありますが、高校生の時に思い描いた病いを抱えた人  
に優しく寄り添うことができる医師を目指して精進したいと思っ  
ています。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。 齋藤 幹